

動物の診察室から

○ 59 ○

ボストンテリアのボブちゃん、4歳のときに、そして、輸血を行いな訳あって今のお父さんのおうちに来ました。性格はとてもよく、すぐにご家族になれ、特にその顔がお父さんそっくりなこともあって、お父さんは



治療に来たボブちゃん

お父さんのボブちゃん

とてもかわいがっていました。

「二人三脚」で闘病3年

ました。

お父さんはボブちゃんの手を握りながら、再び眠りにつくと、

欲も落ちてきたため、毎日通院して血液循環をよくする治療が行われました。

そんなボブちゃんが8歳のときに、突然の病魔がボブちゃんを襲ったのです。朝まで元気だったボブちゃんが昼過ぎから急に元気がなくなったとこのことで来院されました。診察してみると、唇の粘膜は真っ白で、おなかを触ると大きな腫瘍があります。レントゲン、エコー検査の結果、その腫瘍は脾臓で、腹腔内に出血をしているだろうと推測されました。

「管肉腫」でした。血管肉腫は悪性の腫瘍で、脾臓だけでなく、肝臓や心臓付近にも転移することがあります。ボブちゃんの場合も悪性度が高いため、今後、腫瘍の転移の可能性も覚悟しなくてはなりません。

臓の葉を飲みながら、2年以上腫瘍の転移はなく、月に一度来院されるときには、お父さんと一緒に元気な顔を見せてくれていました。

その時点で、普通はもう死んでしまうような状態でした。でも、お父さんは、3年前にためかと思ったボブちゃんに奇跡が起こり今まで生きてきたのだから、もう一度奇跡が起こってくれると思っ

た。お父さんは、だいたすぎなお父さんとお母さんに見守られながら天国へと旅立ったのです。

ボブちゃん、お父さん、本当にがんばりましたね。偉かったと思います。ごころうさまでした。